

## 【牛乳の紙パック化について】

## 1. 現状

- ・生駒市における学校給食用牛乳はビンによる供給

## 2. 令和3年4月から

- ・奈良県下全ての自治体に対し学校給食用牛乳は紙パックによる供給

## [内容量]

200ml

## [形状]

縦：38mm

横：53mm

高さ：106mm

## [重さ]

約214g



## 3. 切り替え理由（奈良県牛乳協会）

## ○ビンでの供給について

- ・ビン充填設備を製造するメーカーの撤退が相次ぎ、学校給食用牛乳の安定供給が出来ない
- ・ビンで供給している2社のうち、万一、1社の製造ラインが停止すると、他社でその分をまかなえず、その場合は紙パックでの対応とならざるを得ないため

## ○紙パックの優位性

- ・紙パックの製造工程から、一つの閉鎖された機械の中で紙パックの組み立て、充填、封入をほぼ同時に行うので、製品の衛生面や安全面での評価が高い
- ・紙パックはビンに比べ軽く、落としてもビンのように割れる心配が無い
- ・ビンでは、ヒビや口欠のチェックが必要ですが、紙パックでは必要が無い
- ・ビンでは、洗ビンや配送の過程で、傷つきやすいが、紙パックでは素材の性質上そのようなリスクが無い

## 4. 対応

- ・県牛乳協会が県下全て紙パック化に移行するためやむを得ない
- ・紙パックの処理については基本廃棄処分とする
- ・環境教育の一環として、リサイクルについては学校の実情に応じて学校の判断で取り組んでいただきたい